

耐震強度計算書(アンカーボルト)

「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」(一般財団法人 日本建築センター)の第1編 第3章 (設備機器の耐震支持) 3. 2 アンカーボルトによる耐震支持(直接支持)に準じて検討する。

1. 機種 = 空冷式ヒートポンプチリングユニット
2. 形名 = CAH-P630C, CAH-P630D

3. 機器緒元

(1) ①機器質量(運転質量): M $M = 818$ kg
②機器重量: W $W = M \times 10/1000 = 8.18$ kN
(2) アンカーボルト
①総本数: n = 8 本
②ボルト径: d(呼称) M = 10
③一本あたりの軸断面積(呼径による断面積) A = 0.7850 cm²
④機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数 nt = 4 本
⑤材質 ボルト(SS400)
(3) 据え付け面より機器重心までの高さ hG = 66.9 cm
(4) 検討する方向から見たボルトスパン l = 75.5 cm
(5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの水平距離 IG = 31.6 cm (IG/l ≤ l/2)

4. 検討計算 (各項を四捨五入して算出)

(1) 設計用水平震度 : KH KH = 1.0
(2) 設計用水平地震力 : FH FH = KH × W = 8.18 kN
(3) 設計用鉛直地震力: FV FV = 1/2 × FH = 4.09 kN
(4) アンカーボルトの1本当たりの引き抜き力: Rb $Rb = \{FH \cdot hG - (W - FV) \cdot lg\} / \{l \cdot nt\} = 1.38$ kN
(5) アンカーボルトの1本当たりに作用するせん断力: Q Q = FH / n = 1.02 kN

(6) アンカーボルトに生ずる応力度

①せん断応力度 τ
 $\tau = Q / A = 1.30$ kN/cm² < 許容せん断応力度 $f_s = 10.1$ kN/cm²
②引っ張り応力度 σ
引張のみを受ける場合の許容引張応力度 $ft = 17.6$ kN/cm²
引っ張りとせん断を同時に受ける場合の許容引張応力度 $fts = 1.4ft - 1.6\tau = 22.6$ kN/cm²
 $\sigma = Rb / A = 1.76$ kN/cm² < ft < fts

(7) 「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」(一般財団法人 日本建築センター)の第1編 付表1より

(7-1) 箱抜き式J形アンカーの場合

①コンクリート厚さ = 120 mm
②ボルトの埋め込み長さ = 70 mm
③許容引き抜き力 $Ta = 3.20$ kN > $Rb = 1.38$ kN

(7-2) 後打ち式樹脂アンカーの場合

①コンクリート厚さ = 120 mm
②ボルトの埋め込み長さ = 80 mm ※
③許容引き抜き力 $Ta = 7.60$ kN > $Rb = 1.38$ kN

※ボルト埋め込み長さの範囲
・下限: 80mm
・上限: コンクリート厚さ - 20mm

以上の計算より、アンカーボルトは十分な強度を有する。

注. 本計算書はアンカーボルトの耐震強度を計算したものであり、製品の強度を保証するものではありません。